月の砂漠

唯人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
月の砂漠

【Ｎコード】
Ｎ２０２５ＢＡ

【作者名】
唯人

【あらすじ】
恋人同士の二人は夜の海を訪れる。

彼女の運転する車で訪れた夜の海は、初夏の風が心地よく、穏やかな水面に映る月の影がとても幻想的だった。
砂浜を僕たちは黙ったまま手を繋ぎ、ただ歩いた。静かで優しい空気が流れて行く。
月の光にうっすらと輝く彼女の瞳はどこか物憂げで、二人の行末をすべて承知しているかのような、切ない光を宿していた。

とても彼女のことが好きだった。今時、肩のあたりで潔く切られた黒髪も、気の強そうな太い眉も、我儘を押し通そうとするぽってりとした唇も。力一杯抱きしめれば折れてしまいそうな細い身体も、涙もろくてそのくせ格好つけの君も。
――心から愛してる。
どうしてこんなことになってしまったのだろう。どんなに考えても答えは見つからない。
ただ一つ分かっていることは、僕たちはこのままの二人ではいられない、ということだけ。
僕は卑怯者だ。こんなに君が好きなのに、君に言わなければならない事がある。
そう、僕は「さよなら」を告げるために、ここに来たのだ。

「……ねえ、私を見て」
立ち止まってそう言った彼女の眼は赤く充血していた。「私を抱いて」
少し戸惑い気味に、それでもゆっくりと彼女の腰に手を回す。僕の冷えた頬に彼女の温かな額が触れる。
「私のことが好き？」
僕は小さく頷いた。「大好きだよ。世界中で誰より、君が好きだ」

右手で髪をかきあげた。大きな瞳から流れる涙に、心が押し潰されそうになる。
「じゃあ、キスして」
重ねた唇の感触も、髪の匂いも、全てがあの頃のままだった。

幸せだった。全てが輝いていた。二人の恋は何もかも順調で、赤い糸の伝説は僕らの為にあるのだと、そう心から信じ笑いあえるくらい、気持ちも身体も、固く繋がっていた。
初めて君の笑顔を見た時、君の弱さと脆さを知った時、君と悩みを共有できた時、そして君の身体を知った時。心の底から、一生君のそばで、君を守り続けたい、そう思った。
そう、互いに寄り添い生きて行く。そう誓い合った筈なのに。

「……どうしてあなただけ先に逝っちゃうのよ」
彼女の瞳から涙が溢れ出す。
「ずっと、一緒だって、二人で年を重ねて生きて行こうって、そう言ってくれたじゃない」
肩を震わせる彼女を、ただ力一杯抱きしめることしかできなかった。
――もうすぐ月の魔法は消えてしまう。
「月の砂漠ってこんな景色なのかな」
彼女は僕の胸に顔を埋めたまま、呟くように言った。
「ただ砂漠だけが広がる闇の世界に、月だけが私を照らすの。こっちにおいで、そんなところで迷っていては駄目だよって。でも」
彼女を抱くこの腕に一層力を込めた。
「二度と街に戻れなくなってもいい。ずっと夜の砂漠でいい。だからそばにいて私を見守っていてよ」
そう言って泣きじゃくる彼女を、一体どういう言葉で慰めればいいのだろう。

何度も何度も夜の砂浜の上で僕たちは愛し合った。この一瞬を永遠にするために、僕たちはただ求めあった。

そして、夜が明けようとしていた。

「……ごめんね」

彼女は砂浜に横たわったまま動かなかった。僕の手をしっかりと握りながら。

「もう、行かなきゃ」

彼女は何も答えない。

「僕は君を愛してる。君には幸せになってほしい。本当にそう思っている。だから――」

僕の身体は陽の明かりに溶ける月のように形を失い始めた。繋いだ手の感触も消えて行く。

「駄目よ……」言葉にならない声で呟く君。

僕は精一杯微笑む。

最後に笑って。君に恋したあの時のように。

そう、笑って。二人で生きたことが、幸せだったことの証に。

月と太陽のように、僕は君を見つめているよ。この先、君がどんなに暗い砂漠に迷い込もうと、僕は君の幸せな未来のため、光を照らしてみせる。

今夜の奇跡をくれたあの月の光の魔法のように、きっと。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2025ba/

月の砂漠

2012年1月5日01時47分発行